

左の如くである。

一、交總本部及各加盟組合情勢報告

二、議事

(一) 組合強化並に日常活動方針に關する件

此の議案は各組合を強化するための具體的實行方針で

(二) 職場組織の強化 (三) 職場内活動の強力化 (四) 組

合全體の強化 (五) 組合の日常活動方針の四項目に分れた

ものである。

(一) 東京市電の所謂第二更生案紛争の件

此の闘争を交總全體の闘争として力強く戦ふための具體的

準備に入ることゝなつた。

(三) ファツショ排撃の件

東京の宮井、伊藤、馬場等が電氣局の命を受け闘争の裏切

準備として始めた日本交通俱樂部日本交通従業員組合の陰

謀を徹底的に暴露排撃し、若し組合員にしてこれと氣脈を

通じて策動する者ある時は、斷乎として組合から放逐する

ことに決定。

(四) 各組合役員改選期統一の件

現在各組合の役員改選期は區々でその結果活動上不便と不

都合が多いのでこれを統一するために先づ共済組合の改選

期を三月下旬にする様努力することに決定。

(五) 交總常任委員補充の件

東交選出の今井藩君辭任後任に内海寅吉君神戸の柴田君辭

任後任に平田榮吉君の推薦あり承認決定。

滿加盟團體としてこれに参加し反ナチス運動を押し進めたる

である。反ナチス、ファツショ粉砕同盟は廣く全國に聲明書

を發送すると共に、七月一日午後六時より本所公會堂に於て

民衆大會を開催したのである。

民衆大會は大衆の熱狂的支持の下に大衆によつて本所公會

堂を埋め東交執行委員長河野平次君議長に押され、ナチス排

撃ファツショ粉砕の議が萬場一致決議されヒットラーに抗議

文を送ることを可決して、演説會に入り中止の連發の中に氣

勢を擧げ午後十時散會した。しかして此の闘争は關西にも擴

大され、かゝる闘争を通じて又労働者戦線の統一が具體的問

題として論議され統一戦線を實現せんとしつゝある。

七、財政確立方針の樹立

大會不参加支部の發生したことによつて、本部財政が今後

相當節手を要することは否むことの出来ない事實である。此の

ことを前提として本部は財政の確立方針に就いて協議し、支

出に於ても出来るだけ切り詰めると同時に、本部費の納入

に對しては支部に納入された實数は必ず本部に納入すること

とを絶対條件とし、更に全支部と協力し一人でも多く會費を

納入せしめべく、支部の會合に本部より出席して大衆に財政

確立を訴へ、大衆的に財政を確立することとなり、此の方針

は遂次實踐され、本部財政は自動車部其の他不参加支部の本

部費納入にも拘はらず、除々に確立の道を進みつゝあるの

(六) 交總大會の件
十一月中に關西で開催すること
以上

六、反ナチス、ファツショ
粉砕闘争

獨逸に於てヒットラーが政權を握つて以來ナチスの暴虐は
全世界に於ける民衆の反感を高めてゐる。ナチスは獨逸に於
ける一切の勞農無産團體及文化團體を徹底的に彈壓し、反ド
イツ的或は進歩的書籍の如きドシク、抑収して燃捨てゐるの
だ。斯かる暴虐も死に潮したドイツ資本主義を擁護せんとす
るためであるが、しかし斯くの如きことは獨りドイツのみで
はない。凡ゆる資本主義國家に於ては程度の差こそあれ、フ
ァツショ的獨裁によつてゐるのだ。従つてドイツに於けるか
かるナチスの暴虐に對しては、決して對岸の火災視してゐる
ことは出来ないのだ。それこそドイツに於ける

言論、出版、集會等に對する極度の暴壓はこれを
立證してゐる。

ナチス反對ファツショ粉砕こそは今日我々の生活を守るた
めにもなされねばならないのだ。關東勞働組合會議は東京地方
に於ける勞農團體を中心に、反ナチスの一切の團體を糾合し
反ナチス、ファツショ粉砕同盟を組織した。我東交も組合會

だ。

八、市電内反動ファツショ
粉砕闘争

滿蒙事變を契機として反動ファツショが急速に擡頭し、勞
働組合、無産政黨の中からファツショに轉落する卑怯者を
出すに至つた。東京市電に於ても皆て昭和五年のストライキ
に裏切つて除名された宮井、伊藤、馬場、濱田等は除名され
た後は、全従業員よりは完全に見離され、孤影消然として見
る影もなき情態であつたが、此のファツショの波に渡りに舟
とばかりに新日本國民同盟なる反動團體に加入し、日本主義
交通労働組合準備會なるものをテツチ上げ、各職場へ魔手を
延ばしたが大衆は彼等の正體を除きよく知つてゐるので相
手にせず自滅の情態に立至つたが、最近更に日本交通俱樂部
日本交通従業員組合なるものに看板を塗り換へ、虎の門ビル
に事務所を設けて又策動を始めたのである。

だが彼等の日本交通俱樂部、日本交通従業員組合の背後には
電氣局が隠然と控えてゐるのだ。即ち運輸課長潮川某と共に
の壘下吉田某が策動し、吉田某は毎日の様に事務所に出入し
てゐる。此のことは電氣局が第二の更生案による彈壓を全従
業員に強行するため、彼等を使つて東交の内部を擾亂させ闘
争力を弱め様としてゐる現れなのだ。彼等は只日本主義によ
れば我々の生活は擁護が出来ると言つてゐるのであるが、日